第２１回パネル展「私の中で今、生きているあなた」

ＩＮ滋賀

東近江市八日市駅

東近江市主催のフォーラム

同じ会場でパネル展も

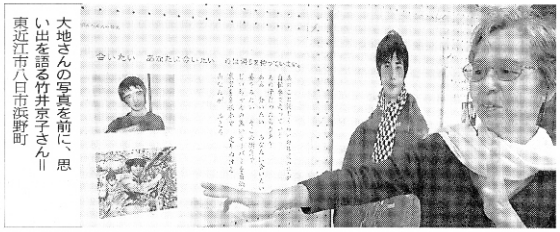
朝日新聞2010年9月26日

心の叫び 受け止めて

自殺50人の遺書や遺族手記 きょうまで東近江で展示

大切な人の心の叫びに気づいて――。自ら命を絶った50人の遺書や遺族の手記などを集めたパネル展「私の中で今、生きているあなた」が25、26両日、東近江市八日市浜野町のアピア4階ホールで開かれている。主催はNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」（大阪市）。2007年から全国各地を巡っている。遺品を展示した、ある遺族の話にそっと耳を傾けた。（加藤藍子）

弱い者は死ね、という社会はおかしい。



大地さんの写真を前に、思い出を語る竹井京子さん＝東近江市八日市浜野町

シグナル察知 関係機関連携「まだ不十分」

「あのこと同じくらいの年頃の子が 自転車で走っていく あの子だったらなあ～ ああ 会いたい あなたに会いたい」

大阪府枚方市の竹井京子さん(61)が、19歳で亡くなった長男大地さんにあてた手紙が会場奥に展示されていた。パネルには、真っ赤なコートを着た大地さんの写真。「今でもひょっこり帰ってくる気がするの」。まつりとつぶやき、寄り添った。

大地さんは中学1年の秋から不登校になった。初めは深刻に受け止めなかったが、「死にたい」などと口走るようになり、精神科を受診した。進学した定時制高校は退学。アルバイトもしたが、環境になじめず職場を転々とした。

05年10月、知人宅へ行くと言って家を出たまま、大地さんは戻って来なかった。警察から連絡があったのは5日後。自宅近くの公園の池に身投げし、命を絶っていた。

「自分に自信がなくて外に出づらい」「仲間がほしい」――。写真の横に展示されたノートの切れ端には、きちょうめんな文字で大地さんの言葉がつづられている。京子さんが「思いを文章にしてみたら落ち着くから」と勧め、書いたのだという。「中学で周りになじめなかったという小さなつまずきから、自分をダメな人間と思いこむようになってしまった」と京子さんは話す。

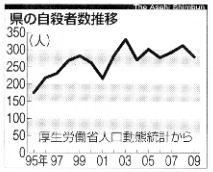
京子さんがパネル展への参加を決意したのは昨年春。「児童相談所にも、医療機関にも駆け込んだのに、息子は救われなかった」。自ら命を絶つまでに追いつめられなければならなかった理由は今も分からない。だが、大地さんがどう生きたのかを伝えたいと思った。

「息子さんと同じ気持ちなんです。でも頑張って生きてみます」。初めて参加したパネル展で、30歳前後の男性に声をかけられたことを忘れない。「弱い者は死ね、という社会はおかしい。一度つまずいても、復帰できる仕組みをつくってほしい」。大地さんの人生を通して訴え続けたい。そう思っている。

国内では自殺者数が12年連続で3万人を突破した。県内でも「自殺は社会問題」と、行政も対策を始めた。

厚生労働省の人口動態統計によると、県内の自殺者数は昨年279人で、人口10万人当たりの自殺者数は20・2人と全国で下から2番目。とはいえ、1995年ごろから増え始め、県障害者自立支援課の担当者は「300人前後で高止まりしている」と話す。

自殺の理由は健康や経済的問題など様々だが、自殺直前にはうつ病に陥りやすいという。そこに着目したのが、大津市の医療機関連携だ。



大津市内では内科などの一般医療機関に、精神科の専門医療機関の連絡先などを書いた手引きが08年に配布された。「原則35、69歳で2カ月以上の治療でも改善が見られない場合」といった基準などが明記され、専門医療機関に紹介するよう呼びかけている。

背景には、専門医療機関との連携が不十分なことがある。市内の医療機関（精神科を除く）を対象に県が08年に実施した調査では、「地域で連携できる精神科がない」と回答した医療機関が4割を超えた。市保健所の担当者は「症状が改善しないまま適切な治療が行われない状況を減らす態勢づくりが必要だ」と話す。

県も7月、自殺を減らすために数値目標などを盛り込んだ基本方針を初めてつくった。担当者は「自殺のシグナルをいかに早く察知するか。関係機関の連携はまだ不十分」と話した。（高久潤）

人生に残るプロの写真を!!
芸術的なムードとシャープな写真を撮影する
谷本勇写真室
◆ポートレート・お見合・ご家族・パンフレット写真
◆結婚の日時はお早めにお電話でご予約下さい。
本 店 大津市京町3-2-8 ☎077-522-7132
瀬田店 大津市一里山2-10-5 ☎077-548-9508

ご自宅葬から社葬・団体葬まで承ります
株式会社 セレマ 玉泉院
シティーホール
大津シティホール 浜大津シティホール
草津シティホール 新旭シティホール
彦根シティホール 栗東シティホール
水口シティホール 湖西シティホール